
リリカルなのは ~パンチホッパーのその後・・・・~
ファントム

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは ～パンチホッパーのその後……～

【Nコード】

N9762P

【作者名】

ファントム

【あらすじ】

死亡したはずの影山……
なぜか小さくなって目を覚ました彼に、生きる希望をくれたのは……
……！？

（前書き）

仮面ライダーカブト見て、どうしてもやりたかっただけです・・・

もし、好評だったら連載も考えます

ある星の

ある国の

ある港に・・・

2人の男がいた

しかし、男の一人は息を切らして苦しそうにしていた

そして、苦しんでいた方の男が口を開いた

「???」俺は… 兄貴も知らない暗闇を知ってしまった…」

「???」連れて行って欲しかったけどさ…」

「???」俺はもう、一生この暗闇から出れないよ…」

男は言い終わると、バツタの機械のようなものを自分のベルトにはめ込む

すると、男の姿はどんどん茶色いバツタの鎧に包まれていく

「???」さよならだ… 兄貴」

兄貴「相棒おおおおお!!!」

そこで、茶色いバッタ・・・パンチホッパーの意識は無くなった

「????」・・・・・・・・あれ？」

「・・・俺は・・・確かに兄貴に・・・

だったら、なんで・・・

俺はこんなところで倒れているのさ・・・？

「・・・とりあえず、俺の名前は影山瞬^{かげやましゅん}」

あのムシケラ《ワーム》と戦ってきたマスクドライダー・・・

「????」あの、大丈夫ですか？」

ここはどこで、目の前にいる、茶髪ツインテールのガキは誰なのさ？

ガキ「おとうさん、起きたよー！」

「????」本当か！？分かった、少し待ってくれ」

少し時間を置いて、大人が一人来た・・・若いな。

???「目を覚ましてよかったよ・・・ところで君はどうしてあんなところにいたんだい？」

影山「あんなところって・・・というより、あんた誰？」

???「ああ、すまない。申し遅れたね、私は高町 士郎だ」

ガキ「私は高町 なのはっていの！君は？」

なれなれしいガキだな・・・でも、俺にはそんな扱い程度がちょうどいいさ・・・

影山「影山・・・瞬」

なのは「じゃあ瞬君だね！」

・・・コレはさすがに聞き流せないな・・・

影山「おい、ガキ 大人はもつと敬意を払え」

相手はガキだからできるだけ優しく言う・・・クソッ！

なのは「え・・・！でも、私とおんなじくらいの年だね・・・？」

影山「はあ？俺は・・・」

そこまで言っただけだった・・・

縮んでる・・・？

士郎「・・・なにか事情がありそうだね？あんなところにいたくらいだし」

影山「あんなところって・・・どこにいたのさ？」

士郎「ゴミ捨て場だよ・・・なのはが男の子が捨てられているといったときは驚いたよ」

影山「ゴミ捨て場・・・俺にぴったリじゃないか・・・」

士郎「・・・え？」

なのは「瞬君面白いの！」

どうやらガキの方は「冗談だと思ったみたいけど・・・大人の方は理解したみたいだ

士郎「君、家族は？」

家族・・・そうだ、兄貴は！？」

影山「兄貴、兄貴は！？」

士郎「お兄さんがいるのかい！？」

影山「この腐った世界で唯一、俺に振り向いてくれた人だ！！」

・・・そうだ、・・・でも、俺はもう兄貴に会えないんだった・・・

・

なのは「瞬君大丈夫？とっても辛そうな顔してるの・・・」

うるさい、お前なんか何が分かるのさ？

そう言いかけたけど、もうどうでもいいや・・・

俺は何で生きてたのか知らないけど・・・

ワームになるくらいならもう一度死んだほうがましだ・・・

俺は俺の兄貴からもらった服を返してもらい（服も縮んでた）、その家・・・というか店から出て行こうとしたとき

士郎「ああ、家まで送るよ。家はどこだい？」

なんて訊いてきた・・・

影山「家なんか無いさ・・・必要ないし、光を求めたらいけないのさ・
・あ、あの犬褒められてる、いいなあ」

俺が犬をうらやましがっていると・・・

士郎「・・・君、ここに住みなさい」

・・・は？

なのは「瞬君ここに住むの！？よろしくね！」

影山「なんでそうなるのさ!!」

俺がそう言い返すと

なのは「いやなの・・・?」

涙目&上目遣いで見てきたが

影山「絶対に嫌だ」

そもそも、俺は死ぬつもりだし、こんな幸せそうな奴らと暮らすなんて考えるだけで虫唾が走る!

士郎「何か不満があるんだったら聞くよ!だから・・・」

影山「・・・いいよなあ・・・アンタは・・・どうせ、部下に裏切られたことも、雨の中地面をはいつくばったことも、約1話の中だけで片思いと失恋をしたことも、いきなりギャグキャラにされたことも、ある日突然化け物にされたことも無いんだろ・・・!」

途中、変なの混じった?

その場が沈黙に包まれた・・・

すると

なのは「友達になろうよ」

ガキがこんなことを言い出した

影山「は？どうしてそうなるのさ？」

なのは「なりたいから。友達に」

このガキ・・・本当に訳わかんないね！！！！どういつ神経してるのさ！？

今時、友達なろうなんてクサイこと言うやつ始めて見た！

でも・・・もう少しだけ、生きてみようなんて思った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9762p/>

リリカルなのは ～パンチホッパーのその後・・・～

2011年1月9日07時24分発行